

令和6年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

令和6年5月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察	1
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	1
問題別正答率（%）	2

社 会

1 結果の考察	3
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	3
問題別正答率（%）	4

数 学

1 結果の考察	5
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	5
問題別正答率（%）	6

理 科

1 結果の考察	7
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	7
問題別正答率（%）	8

英 語

1 結果の考察	9
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	9
問題別正答率（%）	10

資 料

令和6年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等）

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

国語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

□の問四及び問五は、登場人物の心情の変化を描写を基に捉える力をみる問題だが、どちらも正答率は高く、「読むこと」の力が身に付いていることがうかがわれる。細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えることを心掛けたい。□の問七は、具体と抽象など情報と情報との関係について理解する力をみる問題だが、正答率は高く、学習の成果がみえる。具体と抽象という概念を理解するとともに、具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について具体的な事例で説明したりすることができるようにしたい。□の作文は、資料に示された情報を整理し理解する力と、自分の考えを理由を明確にしながら書く力をみる問題である。約7割の受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校から「気づいたことを踏まえて自分の考えを書くことができていない」という報告も寄せられている。目的や意図に応じて、材料を比較しながら取捨選択したり、ある観点から分類したりすることで、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることが大切である。

(2) 課題がみえる問題

□の問七は、物語の展開の仕方を捉える力をみる問題だが、正答率が伸びなかった。物語の展開には、出来事の印象を深めたり次の展開への期待を促したりするなどの多様な工夫がなされている。このような展開の仕方を捉え、文章全体への理解を深める学習に取り組むたい。□の問二は、単語の活用についての基礎的な知識・技能をみる問題だが、正答率は3割にとどまり、課題がみえる。送り仮名の付け方や単語の類別に関する学習と関連付けながら、単語の活用を理解できるようにしたい。□の問二(2)は、話合いにおいて、進行の仕方を工夫する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。話合いを目的に沿って効率よく進めるために、目的に合った話合いの進め方を提案したり、話合いの進み具合を把握したり、それまでの話合いの経緯を振り返ってこれからの展開を考えたりすることを大切にしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

(2) 自ら進んで読書に取り組むことができる

知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、自ら進んで読書に取り組み、集めた情報を活用することができる。

(3) 授業者は、目指す資質・能力の確実な育成に向けた授業計画と評価の工夫を

授業者は、各単元で育成する資質・能力を適切に位置付けた年間指導計画を作成するとともに、言葉による見方・考え方を働かせて深い学びを実現する学習過程を大切にし、資質・能力の育成に適した言語活動の充実を図りたい。その上で、資質・能力が身に付いたかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

問	4	3	6			2	2	4	2	2	2	27
問二												
問三												
問五												
問七												
問六												
問五(例)												
問四												
問三(例)												
問二												
問一												
問一												
問二												
問三												
問四												
問五												
問六												
問七												
備考												
完 解	4.9											
50~99%	33.5											
1~49%	21.0											

問	3	3	4	2	5			4	2	2	2	27
問一												
問二												
問三(例)												
問四(例)												
問五												
問六												
問七												
備考												
完 解	33.9											
50~99%	36.6											
1~49%	8.9											

問三 本文に即した内容であること。
問四 本文に即した内容であること。
問五II 本文に即した内容であること。「前向きに捉えてもよい。」などでもよい。

問	3	2	2	2	2	2	2	18
問一								
問二								
問三								
問四								
問五								
備考								
完 解	30.4							
9点~13点	41.1							
5点~8点	18.3							
1点~4点	6.3							

(3) 書写・表記 3
(2) 構想・叙述 6
(1) 内容 9

【評価の観点】
(1) 内容
○ ○ グラフを見て気づいたことが、明確に述べられているか。
○ ○ 「これから自分が伸ばしたい力」という題に即して、理由を明確にしながら、自分の考えを深めているか。
○ ○ 第二段落で述べられている内容が、第一段落で述べられている内容を踏まえたものになっているか。
(2) 構想・叙述
○ ○ 二段落で構成されており、二〇〇字以上、二四〇字以内で書かれてあるか。
○ ○ 第一段落には、グラフを見て気づいたことが述べられ、第二段落には、自分の考えが、その考えた理由を含めて述べられているか。
○ ○ 文章の組み立てや展開が適切で、叙述の仕方が的確であるか。
(3) 書写・表記
○ ○ 文字が正しく、表記や語句の用法が適切であるか。
○ ○ 字形や大きさ、配列など、文字が整っているか。

問	3	2	2	2	2	2	2	15
問一								
問二								
問三								
問四								
問五								
備考								
完 解	33.9							
50~99%	36.6							
1~49%	8.9							

問一 胸 92.9
問二 束 94.6
問三 看板 77.2
問四 圧縮 87.5
問五 俳句 87.9

問一 胸 92.9
問二 束 94.6
問三 看板 77.2
問四 圧縮 87.5
問五 俳句 87.9

問一 胸 92.9
問二 束 94.6
問三 看板 77.2
問四 圧縮 87.5
問五 俳句 87.9

問一 胸 92.9
問二 束 94.6
問三 看板 77.2
問四 圧縮 87.5
問五 俳句 87.9

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の2(2)は、地域で見られる地理的な課題について、資料を基に、思考・判断したことを表現する力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、学習の成果がみえる。地域を比較したり関連付けたりしながら、地域の課題の特色や要因などを考察する学習が十分に行われていることがうかがわれる。⑥の1は、現代の社会的事象の意味や意義を説明する力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、学習の成果がみえる。今後も、日常の社会生活と関連付けながら、政治や経済などに関わる制度や仕組みの意義や働きについて理解を深める学習を心掛けたい。②の2(1)、⑤の3は、基礎的な知識を問う問題だが、正答率が9割を超えており、日常の学習において、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の習得が図られていることがうかがわれる。

(2) 課題がみえる問題

③の2(2)、④の5は、歴史の流れを問う問題だが、正答率が低く、課題がみえる。歴史に関わる事象の意味や意義、特色、事象間の関連を説明する活動などを通して、歴史の大きな流れを理解したい。④の3は、歴史に関わる事象の意味や意義を説明する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付ける学習を心掛けたい。⑤の5は、正答率が低く、課題がみえる。高等学校からは「立憲主義と三権分立を混同している」との報告が寄せられている。我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する活動などを通して、民主政治の基本となる考え方について理解を深めたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、社会的事象の意味・意義や特色、事象間の相互の関連を説明したり議論したりすることができる。

(2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、学習の振り返りができる

持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について多面的・多角的に考察し、構想（選択・判断）することができる。学習の振り返りを行うことで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

(3) 授業者は、学習過程を工夫し、深い学びの実現を

授業者は、単元を貫く課題（問い）を設定し、生徒と課題（問い）を共有したい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育成するため、考察、構想（選択・判断）したことを、根拠や理由を明確にして説明・議論する場を充実させたい。さらに、社会的な見方・考え方を働かせる授業をコーディネートし、社会科としての本質に迫る深い学びを実現させたい。

19	1	1	ア → ウ → イ	45.1
2	2	(1)	ヒンドゥー教	79.0
3	2	X	老年人口	
2	3	Y (例) 急速に増えている		58.9
3	2	3	a ウ b ア c イ	45.5
2	4	(1)	イ	75.0
2	4	(2) 第	3 次産業	64.3
2	5	(1)	エ	79.5
3	5	(2) (例) アフリカ州では収穫面積の拡大、アジア州では生産性の向上により生産量が増えた。		54.9

問	備 考
1	1 全部できて正答とする。 2(2) XとYが両方できて正答とする。 3 全部できて正答とする。
2	2(2) 「環境保全」「両立」が用いられていること。
3	1 「伝教大師」でもよい。 2(1) 「国ごと」「荘園や公領ごと」が用いられていること。 2(2) 全部できて正答とする。

16	2	1	(1) 白神山地	62.1
3	1	(2) エ		66.1
2	2	(1) アイヌ		93.8
3	2	(2) (例) 環境保全と観光業を両立すること。		71.9
3	2	(3) ア		60.7
3	2	(4) ア		63.8

17	3	1	最澄	62.9
3	2	(1) (例) 国ごとに守護、荘園や公領ごとに地頭を設置すること。		42.0
3	2	(2) エ → ウ → ア → イ		19.2
3	3	(1) ウ		62.9
2	3	(2) 中世		83.5
3	4	イ		63.4

18	4	1	*ア	36.6
2	1	*オ		80.4
2	2	富岡製糸場		80.4
3	3	(例) 下関条約で獲得した遼東半島を、清に返還すること。		48.7
3	4	(1) ベルサイユ		80.4
3	4	(2) エ		34.8
3	5	A ア B エ C オ D ウ E イ		32.1

問	備 考
4	1 *の正答については、順序は問わない。 3 「下関条約」「清」が用いられていること。 5 全部できて正答とする。
5	1(2) 「特別国会」でもよい。 2 *の正答については、順序は問わない。両方できて正答とする。
6	1 「勤続年数に応じて給与が増える制度。」などでもよい。

15	5	1	(1) 最高機関	51.3
2	1	(2) 特別会		67.0
2	2	*イ *エ		52.2
2	3	平和主義		92.9
2	4	(1) ウ		77.2
2	4	(2) 国事行為		77.2
3	5	(例) 権力を制限する		25.9

15	6	1	(例) 年齢とともに賃金が増える制度。		70.5
2	2	(1) 国庫支出金		67.4	
2	2	(2) イ		56.3	
2	3	ウ		60.7	
2	4	(1) リデュース		72.8	
2	4	Y (例) 排出量を減らす		75.0	
2	4	Z (例) 吸収量を増やす		60.3	

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の3(1)は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校からは「どの数量をどの文字で表すのかを正確に記述していない」などの報告が寄せられている。方程式を活用するに当たっては、その立式の段階が重要である。事象の中の数量や数量の関係を式に表す力を身に付けたい。②の4は、累積相対度数を用いて、判断の根拠を的確に表現する力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動を通して、数学的に表現することのよさを実感できるようにしたい。③の1は、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、考察する力をみる問題だが、(1)と(2)のグラフの正答率がともに高く学習の成果がみえる。関数の特徴を、表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで、関数についての理解を深めることが大切である。

(2) 課題がみえる問題

①の5は、平面上に表現された空間図形を読み取り、その図形を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。見取図、展開図、投影図を相互に関連付けて、空間図形について、実感を伴いながら理解を深めるような学習を心掛けたい。②の1(1)は、関数の変化の割合を理解し、 y の増加量を求める力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。変化の割合の意味を理解し、 x の係数を基にして y の増加量を求められることなどを理解したい。④の2は、三平方の定理及び相似な図形の性質などを活用し、図形を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。図形について見通しをもって考え、見いだした図形の性質を具体的な場面で活用する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習したことを活用するために、数学的活動に主体的に取り組むことができる

授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、生徒自らが、既習とのつながりなどを基に問題の解決に向けて取り組むことができる。

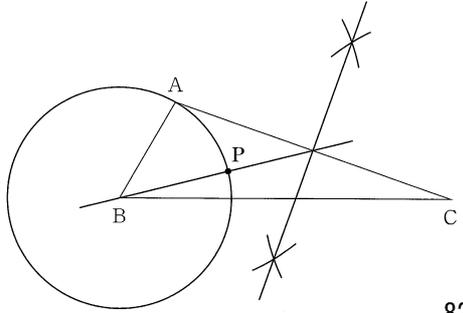
(2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる

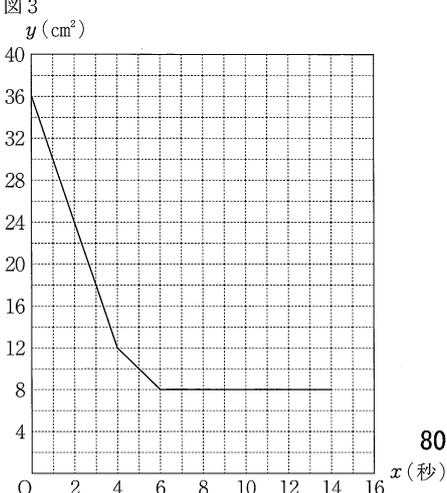
授業の中だけでなく、日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。

(3) 授業者は、生徒が数学を学ぶ楽しさやよさの実感につながる振り返りの充実を

生徒が自己の変容や数学的な見方・考え方のよさを実感できるように、指導計画の中に振り返りの場を効果的に位置付けたり、振り返る視点を与えたりしたい。さらに、生徒の数学的な見方・考え方を広げるため、振り返りの共有などを行う機会を設けたい。

1	32		1	(1)	-1	97.3
	3	(2)		$\frac{3}{4}$	76.3	
	4	(3)		$-5xy$	77.7	
	4	(4)		$4\sqrt{3}$	86.2	
	5	2		$(2x-1)(2x+1)=-4x$ (例) $4x^2-1=-4x$ $4x^2+4x-1=0$ $x = \frac{-4 \pm \sqrt{4^2 - 4 \times 4 \times (-1)}}{2 \times 4}$ $= \frac{-4 \pm \sqrt{32}}{8}$ $= \frac{-4 \pm 4\sqrt{2}}{8}$ $= \frac{-1 \pm \sqrt{2}}{2}$ 答 $x = \frac{-1 \pm \sqrt{2}}{2}$	83.0	
	4	3		47°	60.3	
	4	4		ウ	56.7	
	4	5		ア	40.6	

2	28		2	(1)	-3	39.3					
	1	(2)		$\frac{3}{2}$	42.0						
	2			82.1							
	3	(1)		(例) 昨年度の7月にA山を訪れた人数を x 人とする。 $1.2x + 1.1(14700 - x) = 14700 + 2460$ (例) 昨年度の7月にA山を訪れた人数を x 人、昨年度の7月にB山を訪れた人数を y 人とする。 $\begin{cases} x + y = 14700 \\ 1.2x + 1.1y = 14700 + 2460 \end{cases}$	85.7						
		(2)		11880 人	37.5						
	4	(例) 1日あたりの食事時間が90分未満の生徒の累積相対度数は、A中学校が0.45、B中学校が0.43であり、A中学校のほうが大きいから。									
				<table border="1"> <tr><td>100%</td><td>54.9</td></tr> <tr><td>50~99%</td><td>5.8</td></tr> <tr><td>1~49%</td><td>6.3</td></tr> </table>	100%	54.9	50~99%	5.8	1~49%	6.3	
	100%	54.9									
	50~99%	5.8									
	1~49%	6.3									

3	22		3	(1)	18	73.7
	3	ア		$y = -6x + 36$	56.3	
	3	イ		6	71.0	
	3	ウ		$y = -2x + 20$	47.3	
	4	1		図3 	80.8	
	3	2		エ	8	27.7
	3	2		オ	$2\sqrt{5}$	22.8

4	18		4	1	<証明> (例) $\triangle ABC$ と $\triangle EDA$ において 仮定より $BC = DA$ ① $\angle ACB = \angle AEC$ ② ②より、 $\triangle AEC$ は二等辺三角形だから $AC = EA$ ③ $BC \parallel DA$ で、錯角は等しいから $\angle EAD = \angle AEC$ ④ ②, ④より $\angle ACB = \angle EAD$ ⑤ ①, ③, ⑤より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので $\triangle ABC \equiv \triangle EDA$						
				<table border="1"> <tr><td>100%</td><td>27.7</td></tr> <tr><td>50~99%</td><td>9.8</td></tr> <tr><td>1~49%</td><td>41.1</td></tr> </table>	100%	27.7	50~99%	9.8	1~49%	41.1	
	100%	27.7									
	50~99%	9.8									
	1~49%	41.1									
	2	(1)		$\frac{15}{2}$ cm	20.1						
		(2)		$\frac{40}{7}$ cm ²	4.0						

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2(1)、④の3、⑤の3は、第1分野及び第2分野についての基本的な知識をみる問題であるが、正答率はいずれも約9割と高く、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的な知識が定着していることがうかがわれる。⑥の1は、実験の結果を処理する力をみる問題であるが、正答率は約8割であり、学習の成果がみえる。実験の結果をグラフ化することを通して分析して解釈し、適切に表現する力が養われていることがうかがわれる。⑧の3は、科学的な思考力、判断力、表現力をみる問題であるが、正答率は8割を超えていた。今後も、科学的な知識や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実させるように心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

③の1、④の1は、第2分野についての基本的な知識をみる問題であるが、正答率が低く、課題がみえる。理科の見方・考え方を働かせながら、知識及び技能を習得していくような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑦の3(1)は、理科の学習で得た知識及び技能を活用して、思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が2割を下回った。身近な現象について、日常生活や社会と関連付けながら理解するような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑥の3(2)は、質量変化の規則性について、思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が3割を下回った。結果を分析して解釈し、規則性を見いだして表現するような科学的に探究する学習活動の充実を図りたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる

自然の事物・現象に関して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的に考察したりすることができる。

(2) 見通しをもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる

観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した計画が立案できる。観察・実験の結果を基に課題に正対した考察を行い、その内容を科学的な概念を使用し、適切に表現することができる。

(3) 授業者は、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する指導計画と、指導と評価を一体化させた学習指導の工夫を

授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、各学年で主に重視する探究の学習過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したい。また、指導と評価の一体化を図るため、学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを大切にしたい。

1	12	1	1	(1) えら	98.7	
			1	(2) カ	88.8	
			2	(1) 胎生	94.6	
			2	(2) (例) 殻がある。	76.8	

2	13	2	1	(例) (食物の栄養分を) 吸収されやすい状態に分解すること。	68.3	
			2	(1) アミラーゼ	84.8	
			2	(2) エ	62.1	
			3	(1) 柔毛	88.8	
			3	(2) ア	75.4	

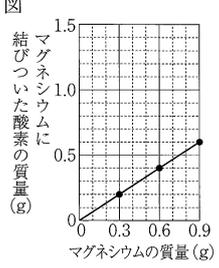
問	備考					
2	1 「(食物の栄養分を) 吸収されやすい物質に変化させること。」などでもよい。					

3	12	3	1	ウ	46.0	
			2	1016 hPa	44.6	
			3	(1) ア	67.4	
			3	(2) (例) 広い範囲に長い時間降る。	75.0	

4	13	4	1	エ	40.6	
			2	(例) 自ら光を出している天体。	91.5	
			3	地軸	92.0	
			4	年周運動	78.6	
			5	ウ	52.2	

5	13	5	1	イ	63.8	
			2	(1) 燃焼	79.0	
			2	(2) (例) 二酸化炭素が発生しない	84.4	
			3	(3) イ	86.6	
			3	非電解質	87.9	

7	13	7	1	ウ	67.4	
			2	仕事の原理	71.0	
			3	(1) 8 cm/s	16.5	
			3	(2) 0.2 W	32.6	

6	12	6	1	 <p>図 マグネシウムに結びついた酸素の質量(g)</p> <p>マグネシウムの質量(g)</p>	78.1	
			2	$2\text{Mg} + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{MgO}$	61.6	
			3	(1) 3.5 g	79.0	
			3	(2) エ	29.5	

8	12	8	1	波	67.0	
			2	(1) 200 Hz	39.7	
			2	(2) オ	62.5	
			3	(例) 強く張り、強くはじいた。	83.5	

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の1のNo.1は、日常的な話題に関する対話を聞いて、必要な情報を聞き取る力をみる問題だが、正答率が9割を超えており、学習の成果がみえる。自然な速度に近い音声を、聞いて理解できるようになっていることがうかがわれる。③の2は、8割の正答率であり、学習の成果がみえる。簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようになっていることがうかがわれる。④の3は、まとまりのある文章を読み、登場人物の心情の変化を捉える力をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。今後も、まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会を通じて、意味のまとまりごとに英文を捉える学習を心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

①の3のNo.2は、日常的な話題に関するスピーチを聞いて、要点を把握する力をみる問題だが、正答率が伸びなかった。話し手が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉えることができるようにしたい。②の3(1)、(2)は、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成する力をみる問題だが、正答率が低かった。言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して、運用能力を高めていきたい。④の5は、まとまりのある文章を読んで概要を把握する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。物語を読む際は、特定の部分にのみとらわれたりすることなく、全体のあらすじを捉えるような学習も心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 英語を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えることができる

目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取らなければならないか、あるいは読み取らなければならないかを判断し、「聞くこと」や「読むこと」を通して、必要な情報や大まかな内容、大切な部分を理解することができる。

(2) 英語で聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

「聞くこと」や「読むこと」を通して理解した情報や考えなどを基に、伝えるべき内容を既存の知識や体験などとも関連付けながら判断し、「話すこと」や「書くこと」を通して表現することができる。

(3) 授業者は、育成を目指す資質・能力を明確にし、身に付けた知識及び技能を生徒が選択しながら活用する学習活動の充実を

生徒の実態や学年・領域別の目標に基づき、各単元や各時間の明確な目標を設定し、生徒と共有したい。また、五つの領域の言語活動を通して、思考・判断・表現することを繰り返す授業づくりを図りたい。

1	26	1			
	3	1	No.1	エ	92.4
	3		No.2	イ	23.6
	3	2	ア	自然	75.1
	3		イ	鳥	86.7
	3	3	ウ	列車	69.3
	3		No.1	ア	32.9
	3	No.2	ウ	53.8	
	5	4	Alice: Did you watch the TV drama last night?		
			Shun: No. I was so (tired that I went to bed early 75.1)		

問	備考
1	2 対話文に即した内容であれば正答とする。
2	3 (1) 全部できて正答とする。 (2) 全部できて正答とする。
3	2 対話文に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

2	18				
1	(1)	as			61.8
	(2)	months			43.1
	(3)	cousin			13.8
2	(1)	イ			76.0
	(2)	ウ			56.9
3	(1)	X カ	Y イ	Z ア	24.9
	(2)	X オ	Y エ	Z イ	18.7

3	16				
1	X	ベトナム			61.8
	Y	インドネシア			64.9
	Z	タイ			68.0
2	(例) 町で最も大きな行事で地元の人々と歌を歌ったこと。				80.4
3	*ア				41.8
	*エ				54.2

4	30	4			
	4	1	(例) ジムさんに政夫さんの和紙の作り方を英語で説明すること。		83.1
	4		(D)		28.4
	3	3	ウ		76.4
	3	4	(1)	(例) Yes, he did.	56.9
	3		(2)	(例) She wanted him to stay at the studio longer.	24.0
	5	5	ウ → イ → エ → オ → ア		17.8
	4	6	I	(例) When did he leave 20.0) the town?	20.0
	4		II	Though he works hard in his studio, he also (例) does many things to 10.7) protect our town's forest.	10.7

5	10				
【評価の観点】					
(1) 内容					
○ 問われた内容に対して、自分の考えなどが明確に述べられているか。					
○ 自分の考えなどに対する理由や具体例が述べられているか。					
○ 4文以上の英文で、文と文のつながりなどに注意して書いているか。					
(2) 正確さ					
○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語句の綴りなどに注意して、正しく書いているか。					
○ 文構造や文法事項などの知識を活用して、正しく書いているか。					
正答率 69.8					
		A	A	(1) 内容	8
		B	B		
		C	C		
		D	D		
		A	A	(2) 正確さ	2
		B	B		
		C	C		

問	備考
4	1 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。
5	(例) I think talking with English speakers online is good. It is an easy way to learn English. We can communicate with them at home. We can also talk with them when we want to.

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

令和6年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中学校卒業生数		9,613	9,112	9,324	9,159	8,927	
全 日 制	県 立	入学定員	6,720	6,720	6,600	6,480	6,280
		入学志願者等の数	6,203	5,786	5,554	5,343	4,974
		倍 率	0.92	0.86	0.84	0.82	0.79
		合格者等の数	5,829	5,400	5,261	5,024	4,810
		最終倍率	0.91	0.85	0.83	0.81	0.78
		充足率	86.7%	80.4%	79.7%	77.5%	76.6%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者等の数	364	338	331	338	375
		倍 率	1.30	1.21	1.18	1.21	1.34
		合格者等の数	283	282	282	280	282
		最終倍率	1.30	1.21	1.18	1.20	1.34
		充足率	101.1%	100.7%	100.7%	100.0%	100.7%
	合 計	入学定員	7,000	7,000	6,880	6,760	6,560
		入学志願者等の数	6,567	6,124	5,885	5,681	5,349
		倍 率	0.94	0.87	0.86	0.84	0.82
		合格者等の数	6,112	5,682	5,543	5,304	5,092
		最終倍率	0.92	0.86	0.85	0.83	0.80
		充足率	87.3%	81.2%	80.6%	78.5%	77.6%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者等の数	127	103	130	133	158	
	倍 率	0.45	0.37	0.46	0.48	0.56	
	合格者等の数	123	102	125	130	152	
	最終倍率	0.45	0.37	0.45	0.47	0.55	
	充足率	43.9%	36.4%	44.6%	46.4%	54.3%	
総 計	入学定員	7,280	7,280	7,160	7,040	6,840	
	入学志願者等の数	6,694	6,227	6,015	5,814	5,507	
	倍 率	0.92	0.86	0.84	0.83	0.81	
	合格者等の数	6,235	5,784	5,668	5,434	5,244	
	最終倍率	0.91	0.84	0.83	0.81	0.79	
	充足率	85.6%	79.5%	79.2%	77.2%	76.7%	

(注)

- (1) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9学年の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率＝入学志願者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
- (6) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

2 課程別・学科別

課程	区分	入学定員		受検者等の数		合格者等の数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通科	3,200	▲ 160	2,549	0.80	2,667	83.3%	
	専門教育を主とする学科	理数	120	40	139	1.16	101	84.2%
		探究	240	0	406	1.69	242	100.8%
		音楽	40	0	11	0.28	11	27.5%
		体育	80	0	80	1.00	80	100.0%
		農業	360	▲ 40	222	0.62	222	61.7%
		工業	1,120	0	749	0.67	749	66.9%
		商業	560	0	565	1.01	472	84.3%
		水産	40	0	21	0.53	21	52.5%
		家庭	80	0	48	0.60	48	60.0%
		看護	40	0	31	0.78	31	77.5%
		情報	40	0	33	0.83	33	82.5%
	総合学科	640	▲ 40	415	0.65	415	64.8%	
合計	6,560	▲ 200	5,269	0.80	5,092	77.6%		
定 時 制	普通	200	0	119	0.60	116	58.0%	
	総合学科	80	0	36	0.45	36	45.0%	
	合計	280	0	155	0.55	152	54.3%	
全定合計		6,840	▲ 200	5,424	0.79	5,244	76.7%	

(注)

- (1) 入学定員の増減は、全日制の普通科（新庄北－1、鶴岡南－4、鶴岡北－3、致道館＋5、酒田西－1）、理数科（鶴岡南－1、致道館＋2）、農業科（置賜農業－1）、商業科（新庄南－1、新庄神室産業＋1）、総合学科（左沢－1）の、各校学級数増減によるものである。
- (2) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

3 推薦入学者選抜実施状況（令和6年度）

区分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専門教育を主とする学科											総合学科
			理数	探究	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員	3,200	120	240	40	80	360	1,120	560	40	80	40	40	640	
募集人員	62	—	—	24	64	96	304	126	12	24	12	10	162	
志願者数	16	—	—	10	73	73	309	209	14	13	17	6	117	
内定者数	16	—	—	10	68	69	264	135	12	13	12	6	108	
志願倍率	0.26	—	—	0.42	1.14	0.76	1.02	1.66	1.17	0.54	1.42	0.60	0.72	
充足率	25.8%	—	—	41.7%	106.3%	71.9%	86.8%	107.1%	100.0%	54.2%	100.0%	60.0%	66.7%	

区分	全日制
	計
入学定員	6,560
募集人員	約 896
志願者数	857
内定者数	713
志願倍率	0.96
充足率	79.6%

区分	課程 学科	定 時 制		
		普通	総合	計
入学定員		200	80	280
募集人員		—	—	—
志願者数		—	—	—
内定者数		—	—	—
志願倍率		—	—	—
充足率		—	—	—

区分	全日制・定時制 総 計
入学定員	6,840
募集人員	約 896
志願者数	857
内定者数	713
志願倍率	0.96
充足率	79.6%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
 - (2) 充足率＝内定者数÷募集人員×100
 - (3) 推薦選抜で志願者があった学校
全日制：28校（前年28校）
65学科（前年65学科）
 - (4) 募集人員（実施要項より）
普通科（小規模校）：30%以内
理数科：30%以内（実施校なし）
音楽科：60%程度
体育科：80%程度
職業に関する学科：30%以内
総合学科：30%以内
- ※県外志願者受入れを実施する場合は50%以内
※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したものである
- (5) 連携型選抜は含まれていない